

えんぼとたんぽの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 255 号	2022年10月25日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

—10月2日（日）会員14名と応援隊員1名（善和；小林さん）が参加し、田圃・須賀河内川・観察路周辺の草刈り、稲刈り準備（はぜかけに用いる竹の準備）、道路の清掃（落ち葉・折れ枝の除去）、須賀河内川内のヨシ除草、除去草の焼却の作業を実施しました。なお小林さんは、辻野会員の要請により参加されました。

—10月8日（土）稲刈りの準備として、13名の会員が参加し、たる太鼓の搬入、・テントの搬入および設置、テーブル、イス等の搬入、仮設トイレの設置、ハゼカケに用いる竹の搬入および支柱の補修の作業を行いました。

前準備として辻野会員による駐車場の草刈りや来賓者の駐車場枠確保等実施されました。

—10月9日（日）稲刈り・ハゼ掛けは終わり近くに少し雨がふりましたが、無事に終わることができ、サツマイモの芋ほりも出来ました。最初に、二俣瀬たる太鼓の演奏があり、会長・宇部市長などの挨拶があり、安全祈願の後、市長の稲刈りの鎌入れをして、全員で稲刈り・ハゼ掛けを行いました。参加者は、親子自然観察隊（親12名、子17名）、二俣瀬子ども会（親11名、子12名）、宇部市長と秘書、二俣瀬たる太鼓6名、二俣瀬小学校校長、二俣瀬市民センター長、元会員の美濃和さん、応援の横川さん、山大学生1名、会員は新入会員の原田恵子さんと21名でした。

—10月23日（日）天気も良く、良く乾いたハゼ掛けの稲を脱穀しました。脱穀した稲は辻野さんの家に運び、乾燥機に投入しました。脱穀用のコンバインは辻野さんが自走で来られました。エコアップは、ため池のヨシを除去しました。参加者は会員13名で、いつも応援して頂いていた横川さんが会員になりました。

辻野さん宅にて、籾の乾燥作業と臼挽き作業も完了しました。ジャスト180kg（3俵）収穫出来ました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎行 事

—11月6日（日）維持活動（草刈り、駐車場草刈り）

—11月19日（土）親子自然観察隊（里山の暮らし）

—11月27日（日）維持活動（草刈り・エコアップ）

3. 来訪者の声 (元会員の美濃和さん)

美濃和です。先日はお世話様でした。ビオトープの稲刈りは14年ぶり、皆様にお会いするのも13年半ぶり、たいへん懐かしく感じました。稲刈りの賑わいも以前の通り、お互い歳は取ったといえ、皆さん元気に活動に取り組んでおられるご様子、とても嬉しく思いました。どんなものでもスーパー、コンビニで買える今の世の中ではありますが、主食の米ぐらいはこうやって作るということを体験することは、これからますます大切になっていくのではないかと、思います。収穫祭Part-2に向けて益々盛り上がっていくといいですね。最後になりますが、情報をつないでいただいた大野さん、送迎していただいた原谷さんには改めて感謝申し上げます。

4. 会員の声 「 」 (記)

今回はありません。

5. 親子自然観察隊 (稲刈りと芋ほり) (菅 隊長 記)

【稲刈り】

前々日は雨でお天気が心配でしたが、午前中は何とか雨は降らず、稲刈りを終わりました。新型コロナウイルス騒ぎのせいで2年ぶりの稲刈りとなりましたが、今年は原田会長に代わり、辻野会員が稲作を引き受けてくれ、無事立派に稲も育ち、再びみんなで稲刈りを楽しむことができました。

今年は宇部市長をお迎えすることもあり、オープンセレモニーとして地元の「二俣瀬たる太鼓」演奏を企画しました。さらに稲刈り前の神事を行うとともに、親子観察隊隊員、二俣瀬子供会より1名ずつ代表者に出席していただき、豊作と無事故の祈願を行いました。

稲刈りは親子自然観察隊、二俣瀬子供会の親子に宇部市長と担当者、二俣瀬小学校校長先生、市民センター関係者、山口大学の学生さん、元会員の美濃和さん、応援の横川さん、ビオトープの会員などを含め、総勢80名ほどが参加され稲刈りを行いました。

稲刈りは1時間ほどで終わり、「ハゼかけ」も済ませました。前々日に雨が降ったこともあり、田んぼがぬかるんだ場所も多く、みんな靴が泥に汚れ、大変だったようです。

【芋ほり】

10時半に稲刈りを終わりましたので、休憩したのち11時より芋ほりを行いました。親子自然観察隊と二俣瀬子供会の親子50名ほどでスコップを使い掘り取りました。立派なお芋がたくさん掘り取られ、みんな夢中になって掘ってくれました。

このお芋は会員の渡辺氏がわざわざ育ててくれたものです。ベニハルカ、シルクスイート、アンノウイモの3種類でした。ご存じのようにこの地区ではイノシシが多く、サルも出没し、芋を育てるには芋畑の周囲を柵や網で囲って栽培します。これも大変な作業が伴いますが、きちんと防護柵を整え、育てていただきました。このお芋は11月の【焼き芋】に使用します。渡辺会員、ありがとうございました。

うまい具合にこれらの行事が終わったのち、雨になりました。借用した大型のテントだけ残し、後片付けを行い解散しました。今回も無事、行事は終了しました、会員の皆さんご苦勞様でした。



稲刈り前のセレモニー 「二俣瀬たる太鼓」の演奏



安全祈願祭を執り行いました



宇部市長による刈り始め式





稲刈りの様子



稲刈り終了後の記念撮影 ↓



芋ほりの様子



初めての芋ほりでしたが、大変皆さんが熱心に、無心に掘り取る様子がうかがえました。お芋づくりは大変ですが、思った以上に皆さんが楽しめることがわかりました。来年もこの企画を進めてはいかがでしょうか。

親子自然観察隊の感想

★中島さん（母）

稲刈りは稲を刈り取るのが楽しく、たくさんの人で作業すると想像していたよりスピーディでした。今ではなかなか体験出来ない手作業での稲刈りをさせて頂き大変良い経験になりました。ありがとうございました。

★藤原さん（母）

初めての稲刈り、すごくてのしかったです。カマを使い慣れてないからケガしないか、させないかはじめは気にしていたけど、途中からそんなことを思う間もなく、忙しくせつせと束ね、あつとゆうまの時間。虫、カエルがたくさん またまた親子共々楽しめました！数える声が元気よくて、皆で協力する子の姿、嬉しかったです。子も楽しかった、と、どんどん上

手くなった！と言っていました。コツ掴んで早くなった！と。芋掘りもう無いなど皆がやめてるのに諦めず探したら、まだまだある宝探しみたいで、最後までやってみました！いつもありがとうございます。

★篠田さん（母）

子供たちにとって稲刈りは初めての経験で楽しみにしていました。次女の結倫子は宣誓という大役も担わせて頂き有難うございました。子供たちは思った以上に一生懸命に取り組んでいましたし、私達大人も無心に稲を刈ったり束ねたり、あっという間の時間でした。本来は重労働の筈ですが、みんなで楽しく稲刈りができて感謝しています。どのような過程を経て日々の食卓のご飯が作られているのか子供たちは初めて知ったことと思います。とても大切な食育だと感じています。芋掘りも、子供たちは生き生きとした表情でとても楽しそうでした。せっかくのお芋をザックリ切って、沢山失敗していましたが、その経験で、どうやって掘るべきかを学んだことでしょう。次はきっと、もっと上手に掘れる、手出しせずそう言っで見守ってくださる皆様に改めて有難さを感じました。今回もお世話になり大変有り難うございました。

★篠丸さん（母）

先日はお世話になりました。息子だけでなく都会育ちの主人も初体験の稲刈りでした。刈る作業は新鮮で面白いのはもちろんですが、刈り取る感覚がスパッと気持ちよかったようです。束ねる作業は慣れなかったとか。普段当たり前に食べているお米ですが、植えて育てて刈る、と手間暇がかかっている事を知れる良い経験になりました！

★湯浅さん（母）

子どもたちは「芋掘りが楽しかった！」「鎌で稲を刈ることが楽しかった！」とのことでした。芋掘りでは最後まで熱心に掘っていました。稲刈りでは友達とのチームプレイ、協力して頑張っていました。貴重な体験をありがとうございました。

★秋田理利

切るのが疲れました。でも、楽しかったです。

★秋田菜那

稲刈りも、芋掘りも、楽しかったです。

6. ビオトープ関連：「山口県の昆虫たち」 （管 哲郎 記）

(80) ヒラタクワガタ *Dorcus titanus* クワガタムシ科

クワガタムシについては皆さんのほうがよく知っていると思いますが、ここで取り上げたのはビオトープの中や周辺の林の中で、久しぶりに複数のオスを見つけたからです。

5月から9月にかけて照葉樹林や雑木林などで見られます、昔はあちこちで見られましたが、現在ではコクワガタのほうをよく見かけ、ノコギリクワガタやミヤマクワガタなどの大型のクワガタムシは少なくなったように感じています。

ヒラタクワガタは全国的に見ても西日本ではふつうにみられるようで、東日本では少ないようです。10年程前でしたら、迷わず採集し標本にしたかもしれませんが、今では数の少ないこともありできるだけそのままにして、観察だけにしています。残しておけば来年にはまた新しい子供が出てくるかもしれませんし、親にも再び会えるかもしれませんね。

ビオトープの「昆虫の森」で、昨年の秋には7頭のコクワガタの死骸を見つけました。もちろん近くの樹木で1頭のヒラタクワガタのオスを見つけています。思った以上にクワガタムシは育っているようで、うれしく思いました。

注意しなければならないことは、カブトムシ、クワガタムシ、カナブンなどの甲虫が多くいる場所には、危険な「オオスズメバチ」も必ずいますので、採集するときにはオオスズメバチがいらないことを確認してください。何もしなければ大丈夫ですが、網を振ったりすると攻撃されたと勘違いし、反撃され刺されます。十分に注意してください。



コクワガタ♂



ミヤマクワガタ



ノコギリクワガタ



オオスズメバチの群れ

7. 会よりの連絡事項

1) 新入会員の紹介

- ①原田恵子さん、山陽小野田市須恵2丁目
- ②横川浩三さん、宇部市二俣瀬下山中

2) 23日に来年春に計画の話の田んぼの厩肥散布は、稲作のノウハウと天候・田んぼの車の乗り入れを考え10月24日(月)地域の応援者、城生原の長岡氏協力のもと厩肥の搬入をしました。したがって寒気の12月中の荒起こし前の活動日に散布いたします。

3) 台風14号時水路に流れ込んで通路に掘りあげた砂を1/3 通りのぞきました。残り軽2台分位、何方か必要な方はありませんか？

8. 編集後記 (原谷 一誠 記)

多くの田んぼが台風14号の被害を受けているが、ビオトープの稲は被害もなく、無事に稲刈りを終えることができた。12月の餅つきが楽しみである。来年も稲作は行うということで計画されている。しかし、有機栽培となると、育成に必要な肥料はどうか、不要な草の除去は、害虫の予防はと多くの問題も考えなくてはいけない。稲作を止めれば、そのような苦労もなくなるが、イベントもなくなり、寂しい活動となる。会員も高齢化して、いろいろな活動にも少し支障も出ているのではと危惧される状況である。若いバリバリの会員が多く入ってくれば、何の苦悩もなくなるのであるが、これもこれで中々難しい状況でもある。誰かいいアイデアを出してもらって克服していきたいと思います。